

2021年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2020年10月27日 テレフォンカンファレンス
7741.T [ADR: HOCOPY US] HOYA株式会社

1. 決算概要 [代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

業績概況

(億円)	Q2 FY19	Q2 FY20	YoY	YoY(%)
売上収益	1,541	1,403	-138	-9%
税引前四半期利益	442	402	-40	-9%
四半期利益	350	318	-32	-9%
cf. 通常の営業活動 からの利益	452	433	-19	-4%

COVID-19の影響が緩和し、売上・利益ともに減少幅が改善した。

為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,408	1,403	-5	-134	-9%
税引前四半期利益	405	402	-3	-37	-9%
四半期利益	321	318	-2	-29	-8%

主要通貨	(A)Q2 FY19 レート	(B)Q2 FY20 レート	変動率
US\$	¥107.67	¥105.25	+2.2%(円高)
EURO	¥118.95	¥124.59	-4.7%(円安)
BAHT	¥3.51	¥3.36	+4.3%(円高)

特殊要因等について

包括利益計算書

(億円)	Q2 FY19	Q2 FY20	YoY
収益合計	1,553	1,417	-137
費用合計	1,111	1,015	-96
減損損失	-	31	+31
税引前四半期利益	442	402	-40

過去に買収した海外子会社において、COVID-19の影響等による臨床試験や承認取得の遅れが発生したため、のれんの減損処理を実施した。

ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q2 FY19	Q2 FY20	YoY	YoY(%)
売上収益*	1,004	901	-103	-10%
税引前四半期利益	206	177	-29	-14%
cf.通常の営業活動 からの利益	217	212	-5	-2%
cf.通常の営業活動 からの利益率	21.6%	23.5%	+1.9pt	

*外部売上の数値

ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

Q2 FY20業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	900	901	+1	-104	-10%
税引前四半期利益	178	177	-0	-29	-14%
cf.通常の営業活動 からの利益	215	212	-3	-2	-1%

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q2 FY19	Q2 FY20	YoY	YoY(%)
売上収益*	524	490	-35	-7%
税引前四半期利益	243	224	-19	-8%
cf.通常の営業活動 からの利益	243	228	-14	-6%
cf.通常の営業活動 からの利益率	46.2%	46.7%	+0.5pt	

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

Q2 FY20業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	495	490	-6	-29	-6%
税引前四半期利益	226	224	-2	-17	-7%
cf.通常の営業活動 からの利益	231	228	-2	-12	-5%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

(億円)	Q2 FY19	Q2 FY20	YoY	YoY(%)
ヘルスケア (メガネ/コンタクトレンズ)	761	682	-79 (-77)	-10% (-10%)
メディカル (眼内レンズ/内視鏡/人工骨)	244	219	-24 (-27)	-10% (-11%)
エレクトロニクス (LSI&FPD/HDD基板)	430	419	-11 (-6)	-3% (-1%)
映像	94	71	-23 (-23)	-25% (-24%)

*括弧内は為替換算影響を除いた実質的な増減額

貸借対照表

(億円)	Q1 FY20	Q2 FY20	QoQ
非流動資産	2,883	2,854	-29 1
流動資産	4,993	5,405	+413 2
資本	6,372	6,636	+264
非流動負債	495	463	-32
流動負債	1,009	1,161	+151
資本及び負債合計	7,876	8,259	+383

- 1** 海外子会社ののれんの減損処理により減少
- 2** 現金が359億円増加したことなどにより増加

キャッシュフロー計算書

(億円)	Q2 FY19	Q2 FY20	YoY
営業活動によるCF	447	484	+37
投資活動によるCF	-111	-87	+24
財務活動によるCF	-75	-18	+56
現金及び現金同等物期末残高	2,984	3,374	+390

① 自社株買いがあった前期と比べ、財務活動による支出が減少

自社株買いについて

先行きの不透明感から一時的にキャッシュ・アロケーションのバランスを調整していたが、ビジビリティが改善しつつあることなどから、自社株買いを実施する。

取得株数の上限：400万株

取得価額の上限：400億円

取得期間：2020/10/28～2021/01/20

➡取得後消却予定

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況 [CTO 池田 英一郎]

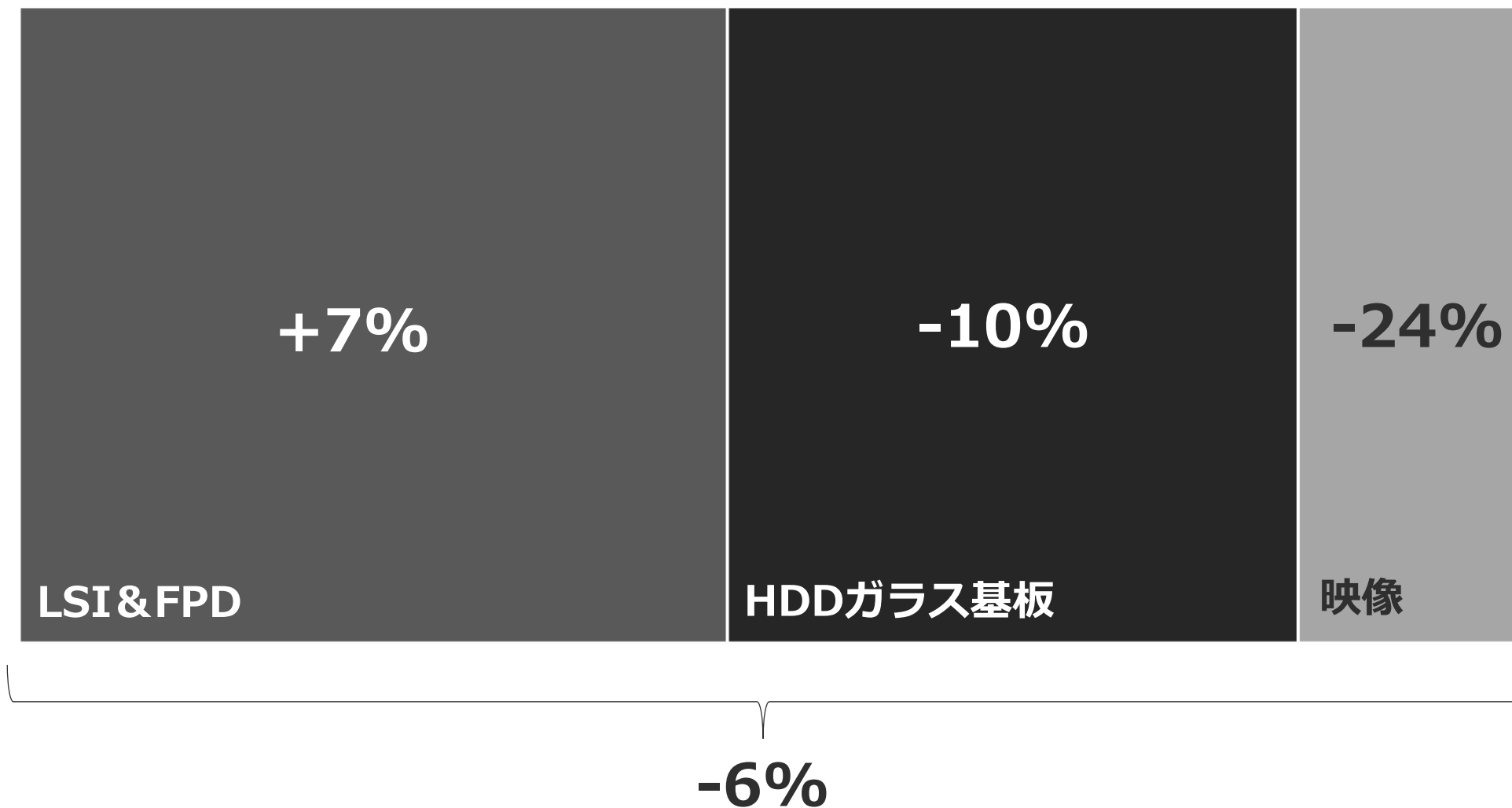
3. ライフケア事業概況

4. 総括

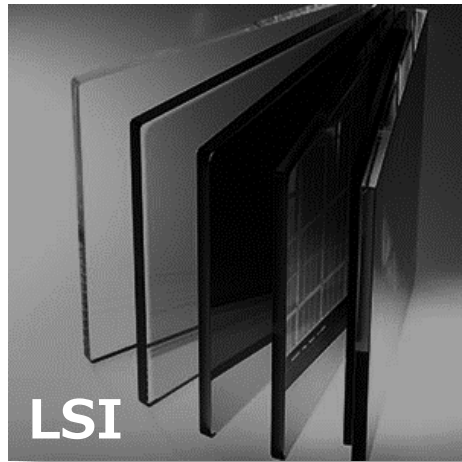
5. 質疑応答

情報・通信事業概況

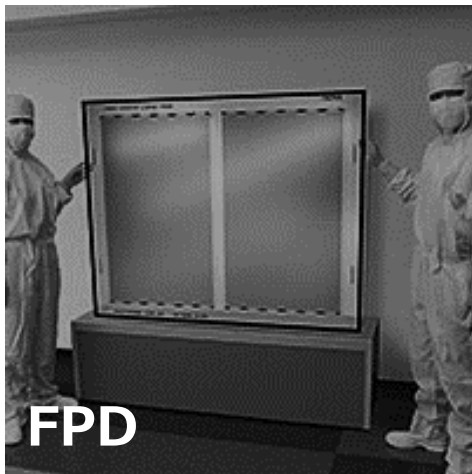
売上増減率 (Like-for-Like)



製品別概況

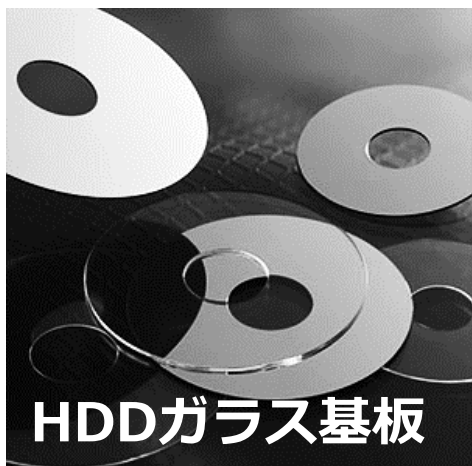


EUVブランクスの上上が前年同期比50%程度の成長。前年同期に日韓貿易紛争に起因する在庫積み増しがあったオプティカル製品は微減収となった。顧客のEUVへの投資がいつそう積極化していることから、さらなる能力増強を検討

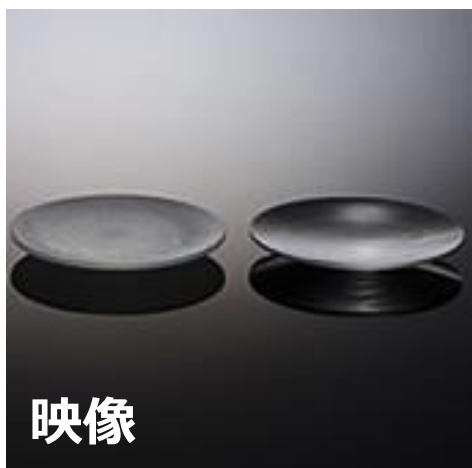


COVID-19に起因する巣ごもり需要により、テレビ向けマスクの需要が増加。パネルメーカーが量産に軸足をシフトしたことにより、開発需要が減少した。また、米中貿易戦争の影響で中国のスマホ向けマスクの販売が減少。今後も高機能/高付加価値マスクに注力していく

製品別概況



3.5"はデータセンター市場が消化フェーズに突入したものの、引き続き2ケタの成長を達成した。他方、2.5"は新型ゲーム機のSSD化などにより、減少が加速し、全体では減収となった。来春には、データセンターの投資サイクルの山が再び訪れる見通し



製品/材料ともに、COVID-19の影響で依然としてデジタルカメラ向け製品の需要が低調（ハイエンドでシェア獲得し、市場全体ほどは下げず）。高機能化が進展すると見られる監視カメラをはじめ、新規用途の売上拡大と、構造改革により収益性の維持を図る。

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況

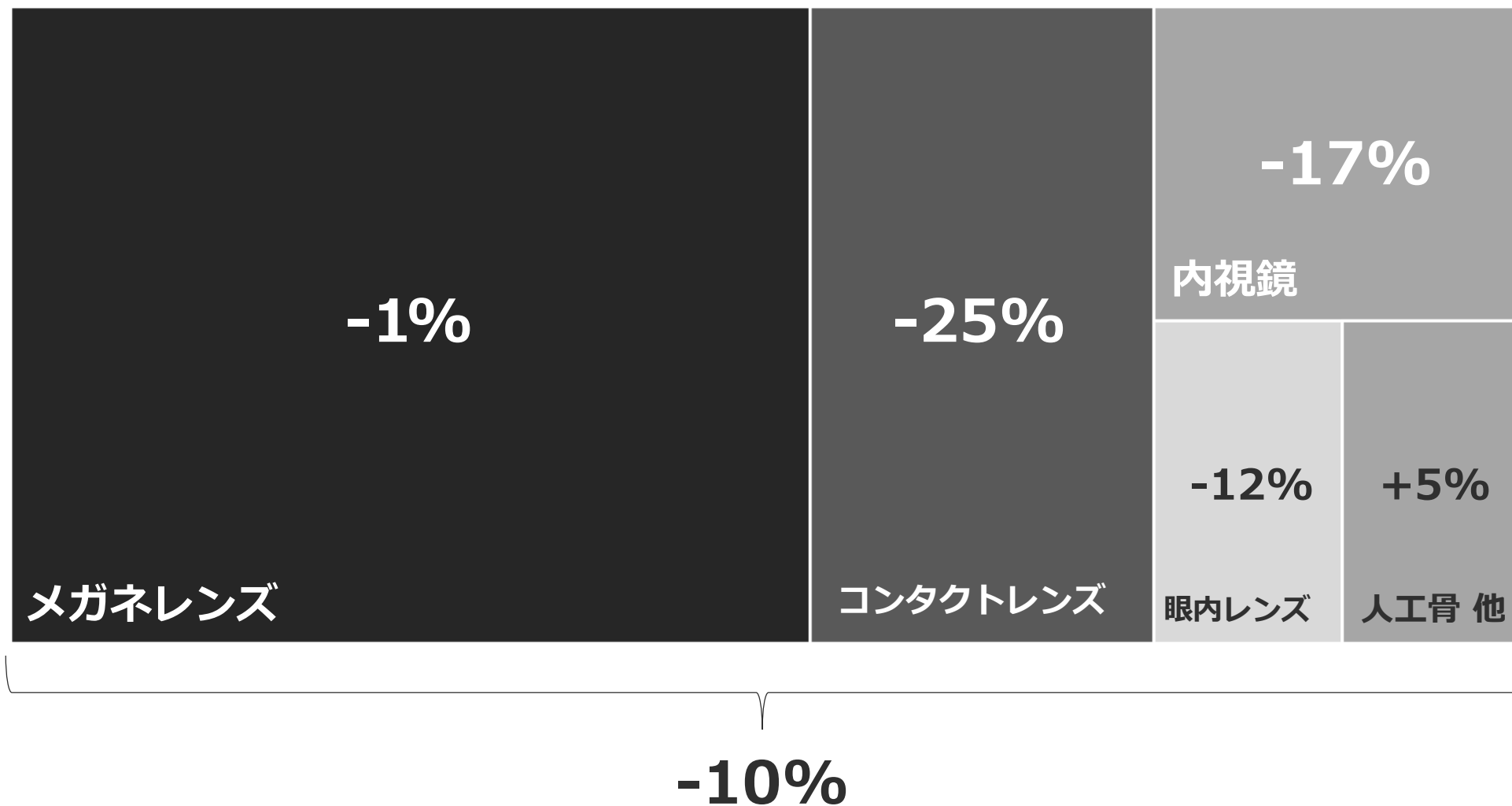
3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]

4. 総括

5. 質疑応答

ライフケア事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



製品別概況



順調に需要が回復し、前年並みの売上水準に。高い成長率を記録した欧州では、密回避から都市型のチェーンから郊外の独立系店に人が流れ、一時的な製品ミックス改善が見られた。再度のロックダウンなどを注視しつつ、Q3に売上は成長軌道に、費用も通常の水準に戻ると見込む



前四半期と比べCOVID-19の影響は小さくなったものの、消費増税前の駆け込み需要があった前年同期と比べて大幅減収となった。また、外出頻度減少によるユーザーの在庫消化速度が落ちていると推測。今後の展開を検討するにあたり、置き置きサービスなどの「新しい生活様式」に則した試験運用を開始

製品別概況



国外市場を中心に徐々に白内障手術の実施件数が回復、大きな打撃を受けたQ1と比べ、売上減少幅が改善。また、本年5月に設立した合併会社を通じて中国市場での売上が大幅に拡大。チャンネル在庫が捌け次第、成長軌道に戻ると見込む。



COVID-19の影響による病院の投資抑制/買い替えの先送りが世界的に継続、内視鏡の需要回復が遅れている。また依然として内視鏡処置の実施制限や、病院へのアクセス制限が続いている状況。以前から課題となっていた米国拠点の組織体制を強化中。オンラインを活用した営業活動に注力

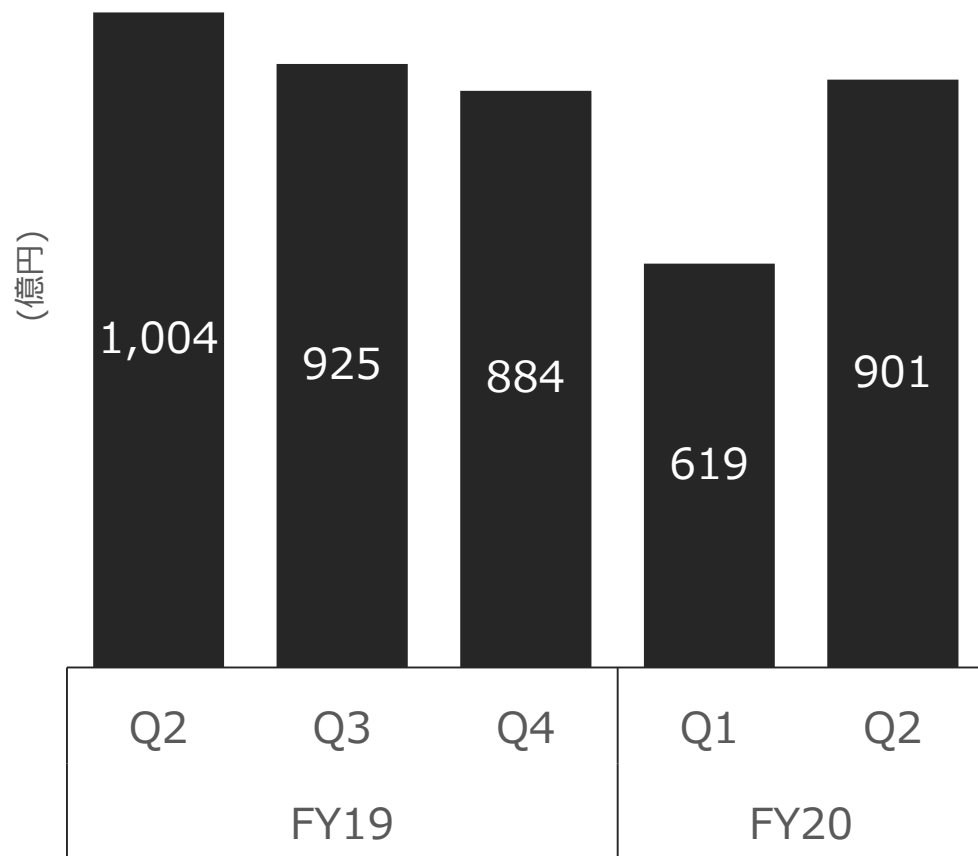
1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括
- 5. 質疑応答**

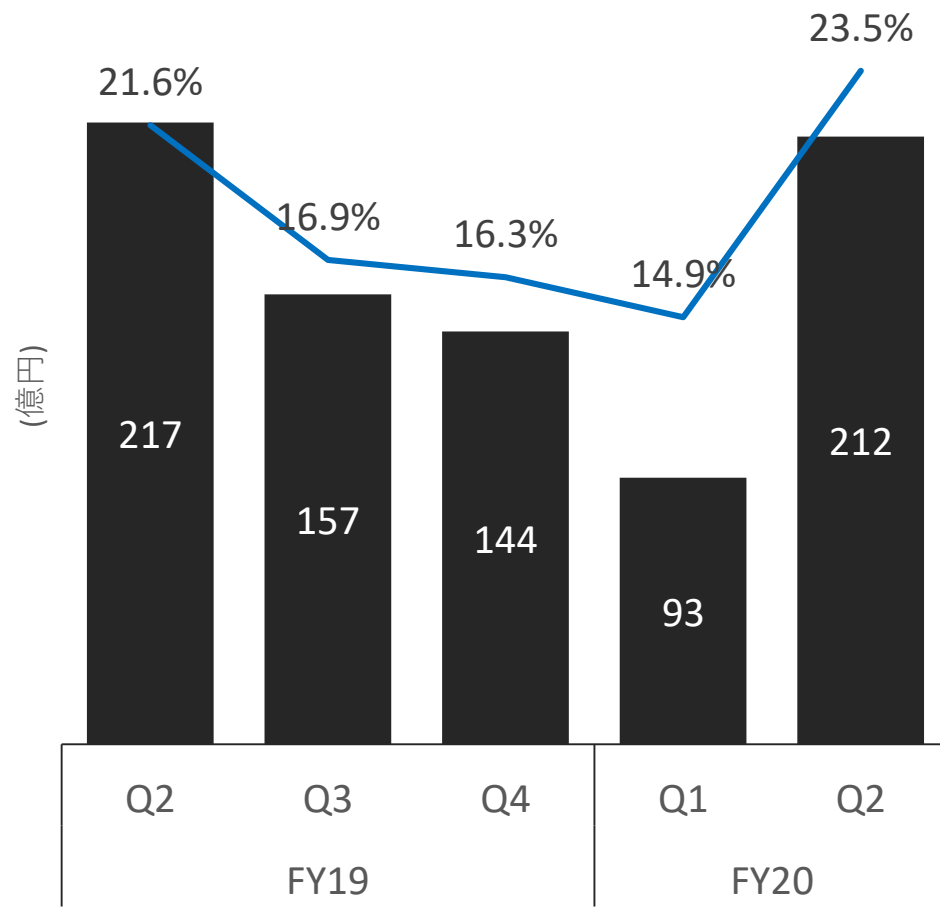
Appendix

ライフケア事業 QoQ推移

売上収益



cf. 通常の営業活動からの利益 / 率

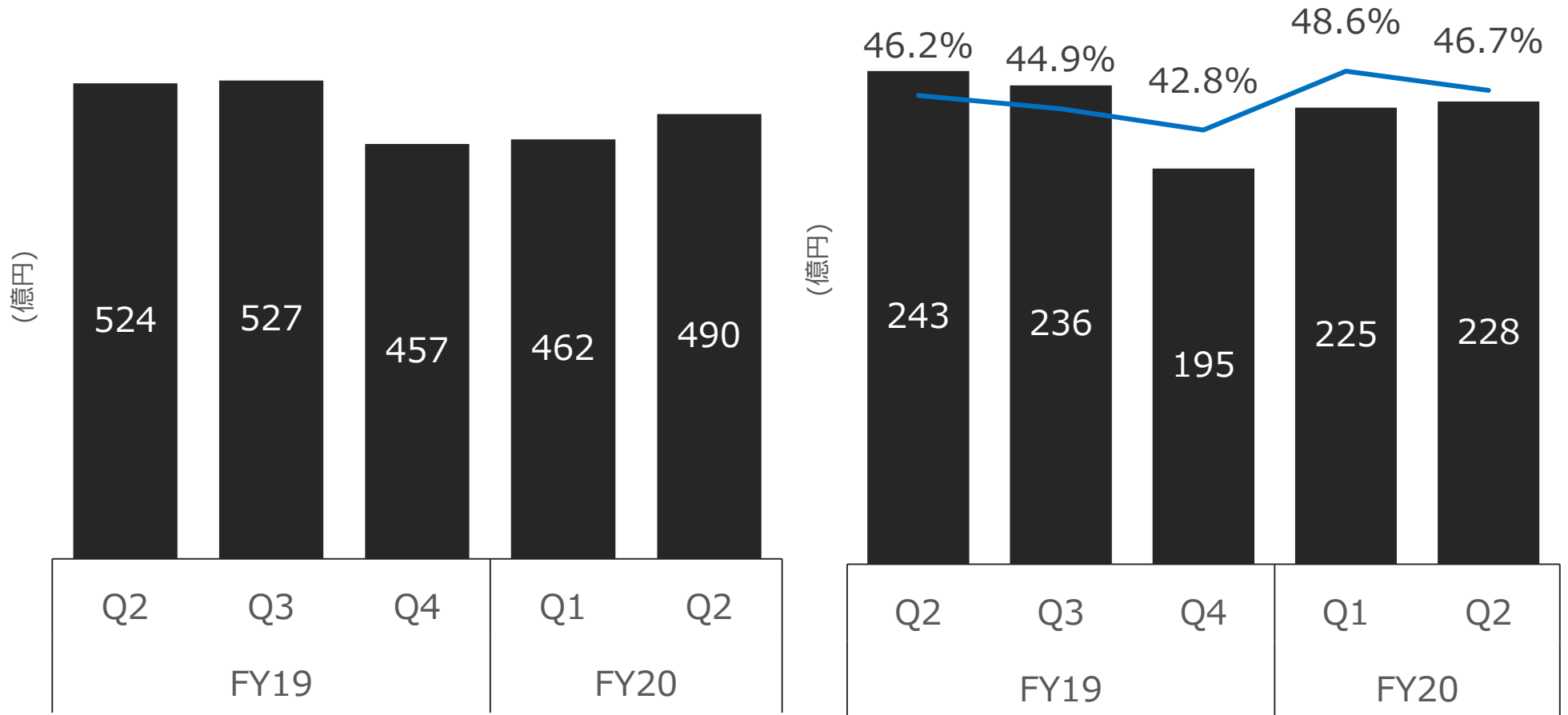


*外部売上の数値

情報・通信事業 QoQ推移

売上収益

cf. 通常の営業活動からの利益 / 率



*外部売上の数値

本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2020年4月～2021年3月の会計期間を2021年3月期もしくはFY20と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q2, Q3, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ Like-for-Likeとは、為替換算影響やM&A効果、その他のイレギュラーな要素を除き比較した変動率を指します。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。

<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

将来予測に関する記述

当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、現在問題となっているCOVID-19をはじめとする疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。